

大ヒット作

最新英語

NETFLIX が映す 驚くべき アメリカの今

定額制ストリーミング・サービスNetflix(ネットフリックス)は、エンターテインメント界の新たなる王者だ。その存在は単なる「新進的プラットフォーム」から革新的オリジナル作品を輩出する「文化の王道」へと変わりつつある。そこでEE読者におすすめしたいのが、最新鋭カルチャーから社会問題を学んでいくスタイルだ。「アメリカの今」を読み解いていきたい。差別主義者もリベラルもぶった斬るエリート大学ドラマ、大統領にもリアリティーを認められた暗黒の政治劇、大企業をものぐ富豪麻薬王、攻撃的な中年男性の悲哀……激動の時代をうつす刺激的なフィクションは、現代アメリカの多様な姿を知らせるとともに、新たな知恵と発想を授けてくれるだろう。

執筆：辰巳JUNK

ライター。セレブリティ、音楽、映画、ドラマなどのアメリカのポップカルチャーを専門に「エル・ジャポン」や「ENGLISH JOURNAL」、書籍「ネットフリックス大解剖」等に寄稿。また、ブログ「辰巳JUNKエリア」ではポップカルチャーと社会問題に関するさまざまなトピックを解説。
<http://outception.hateblo.jp/>



配信前から炎上!?

人種問題に切り込む学園ドラマ

DEAR WHITE PEOPLE

『親愛なる白人様』

Netflixオリジナルシリーズ「親愛なる白人様」シーズン1～2独占配信中

CHAPTER
1

導入、あらすじ

『親愛なる白人様』は、アメリカのエリート大学の黒人寮を舞台とした青春劇だ。扇情的なタイトルは、黒人の主人公サマンサが人種差別問題を糾弾する学内ラジオ番組の名前でもある。こう聞くと怒気に満ちた内容を想像するかもしれないが、1話30分程度のライトな群像劇となっているため、青春ドラマのファンにもおすすめだ。人種差別問題以外にも、アメリカのエリート大学の伝統文化や、近年問題視されるリベラル偏重も描かれる。怒れる主人公は、大学の「リベラルごっこ」の偽善までも暴いていく。

CHAPTER
2

本作が描くもの

アフリカ系アメリカ人への差別

黒人学生たちを中心に学園の波乱を描いた本作は、さまざまな角度からアメリカ社会全体の人種問題を映し出している。第1話では、カリフォルニア大学やダートマス大学などの有名大学でも実際に起こった「白人学生による黒人仮装パーティー」が取り上げられている。「 **minstrel show (minstrel show)** 」*のように黒人を戯画化するというような仮装は、人種問題と表現の自由の間で対処を求め

られる大学当局を巻き込むスキャンダルになり続けている。

* minstrel show: 黒塗りメイクの白人の俳優たちが、黒人を真似て踊りや寸劇を行う差別的な内容のショーで、19世紀にアメリカで流行した

「黒人らしさ」って?

もちろん黒人の間にも障壁がある。黒人と白人の両親を持つ「 **ライトスキン (light skin)** 」の主人公は、ダークな肌色の黒人女子から「特権を持っている」と糾弾されてしまう。同じ黒人でも、肌の色合いで「格差」が存在するのだ。アメリカで活躍する黒人女性スターも、その多くがライトスキンだと指摘されている。

劇中では生徒会長を目指すトイも興味深いキャラクターだ。彼はマジョリティーの白人層から支持を得るために「黒人らしさ」をそぎ落とし「白人が安心できるクリーンな像」を演じていると反感を買っている。こうした不満は、実際にバラク・オバマ前大統領やホイットニー・ヒューストンまで、数々の黒人の有名人に寄せられてきた。

マイノリティー同士の無理解

黒人によるアジア系への無理解も描写される。劇中では、アジア系学生の団体が銃規制にまつわるドキュメンタリーを鑑賞していると聞いた黒人学生は悪気なく「あなたがそれを見るの?」と驚く。そして、怒った相手から人種差別を指摘されるのだ。「アジア人が銃による暴力